



平成 29 年 7 月 13 日

各 位

会社名 株式会社テ・ウェスタン・セラヒ° テクス研究所
 代表者名 代表取締役社長 日高 有一
 (コード番号:4576)
 問合せ先 取締役総務管理部長 川上 哲也
 TEL 052-218-8785

業績予想の修正及び特別損失計上に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 2 月 23 日に公表いたしました業績予想において一部精査中としておりました、D W-1002 (BBG250 を含有する眼科手術補助剤にかかる事業) に関する開発計画及び会計処理が決まりましたので、最近の動向等も踏まえて、下記のとおり修正いたします。また、それに伴い、平成 29 年 12 月期第 2 四半期 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日) において、特別損失 (減損損失) を計上することとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 12 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|------------------------------|------|-------------------|-------------------|-------------------------|-------------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回予想発表 (A) | 290 | △2,040 ～△1,010 | △2,050 ～△1,010 | △1,960 ～△930 | △75.08 ～△35.62 |
| 今回修正予想 (B) | 380 | △680 | △720 | △1,670 | △64.35 |
| 増減額 (B - A) | 90 | 330 ～1,360 | 290 ～1,330 | △740 ～290 | |
| 増減率 (%) | 31.0 | — | — | — | |
| (ご参考)前期実績 (平成 28 年 12 月期) | 168 | △319 | △304 | △253 | △10.46 |

2. 平成 29 年 12 月期通期個別業績予想数値の修正 (平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|-------------|------|-----------------|-----------------|-------------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回予想発表 (A) | 260 | △1,830 ～△790 | △1,830 ～△790 | △70.10 ～△30.26 |
| 今回修正予想 (B) | 350 | △500 | △1,540 | △59.34 |
| 増減額 (B - A) | 90 | 290 ～1,330 | △750 ～290 | |
| 増減率 (%) | 34.6 | — | — | |

| | | | | |
|------------------------------|-----|------|------|-------|
| (ご参考)前期実績 (平成 28 年 12 月期) | 147 | △173 | △174 | △7.21 |
|------------------------------|-----|------|------|-------|

3. 修正理由

平成 29 年 5 月 1 日に公表いたしました「事業譲受完了に関するお知らせ」のとおり、当社は、株式会社ヘリオスから BBG250 を含有する眼科手術補助剤にかかる事業の譲り受けが完了いたしました（当社開発コード：DW-1002）。この事業譲受に伴う開発計画及び会計処理が確定しましたので、平成 29 年 12 月期の連結及び個別業績予想値（以下、「業績予想」）を修正いたします。

業績予想につきましては、開発計画に従って売上高・費用を見直いたしました。また、事業譲受に伴う会計処理においては、研究開発費として見込んでいた費用が特別損失（減損損失）となり、平成 29 年 12 月期第 2 四半期に特別損失（減損損失）1,040 百万円を計上いたします。特別損失（減損損失）の内容につきましては、下記 4. をご参照ください。

なお、平成 29 年 2 月 23 日公表の中期経営計画も修正しておりますので、詳細は本日公表の「中期経営計画の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

4. 特別損失（減損損失）の内容

上記 3. に記載のとおり、当社は、株式会社ヘリオスから BBG250 を含有する眼科手術補助剤にかかる事業の譲り受けが完了いたしました。この事業譲受に伴う会計処理において、「企業結合に関する会計基準」に従い、のれんが発生いたしました。しかしながら、本事業譲受時点において、当業界の特性上、将来、上市申請出来るかどうか及びその時期等については不確実性が高いことから、監査法人と協議した結果、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損損失 1,040 百万円を計上することといたしました。

この減損損失額ですが、本事業の譲受価格 1,300 百万円の他に 100 百万円のマイルストーン発生可能性を含む総額 1,400 百万円の会計処理を監査法人と協議いたしました。その結果、欧州において上市済みである販売品の価値を 360 百万円として資産計上し、欧州以外の上市していない開発段階である開発品の価値を 1,040 百万円として減損損失計上することを決定したものです。

なお、上記会計上の処理とは関係なく、本事業譲受の開発品に新たな欠陥が発見された等本事業自体には何ら大きな変化が起きたわけではありませぬので、当社は引き続きライセンスアウト先と協力して、早期の収益化に寄与するよう開発に邁進してまいります。

以上